HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	国内における宿泊施設型ゲストハウスの実体に関する考察 ： 2017 年に実施した質問紙調査を基に
Author(s)	石川, 美澄
Description	研究発表スライド Presentation Materials
Relation	第32回日本観光研究学会全国大会. 2017/12/3. 金沢星稜大学.
Issue Date	2017-12-03
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/67780
Type	conference presentation
File Information	02PresentationMaterials_Ishikawa.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

国内における宿泊施設型ゲストハウスの実態に関する考察

―2017年に実施した質問紙調査を基に―

石川美澄　　mail: ishikawa@kyoei.ac.jp

共栄大学国際経営学部

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院　博士後期課程

発表内容

- 研究の目的・背景
- 調査方法と手順
- 結果
- 考察
- まとめと今後の課題

研究の目的

- 質問紙調査を通じて、国内におけるＧＨの実態を明らかにすること

研究の背景__ 1

- **2012年に同様の調査を実施した**
  - 石川・山村（2014）
  - 2012年ーインバウンド　836万人
  - 2016年ー　　同　　2,400万人超

研究の背景__ 2

- **メディア等でのGHの露出度UP**

研究の背景__ 3

- **GHに関する研究・実践の蓄積の増加**
  - 石川・山村(2014) －全国的なGHの実態把握
  - 松原(2016, 2017) －住居学の視点から
  - 小林・森永(2015)ほか－ GHと地域の関係
  - 片桐・梶山・東(2015)－着地型観光の担い手育成の場

研究の背景__ 3

- 空き家の活用
- 交流拠点創出の手段

調査方法と手順

- 本調査におけるゲストハウスの定義
  - 「ゲストハウスやバックパッカーズ、ホステル等と自称している宿泊施設」
    - 2012年実施時と同一とした
    - 経年変化を明らかにするため

調査方法と手順

調査期間	2017年6月12日～8月31日(当日消印有効)
送付物	依頼文（A4用紙1枚） 質問紙（B4用紙1枚） 料金受取人払い用封筒（1通）
送付枚数	992通（岩手県を除く46都道府県）
回収枚数	289通

調査方法と手順

- ゲストハウスの選定手順
  - 2012年調査と基本的には同じ

992軒のＧＨを抽出した

調査結果

992票中289票の回答あり

↓

記入内容が十分でない2票を除外

↓

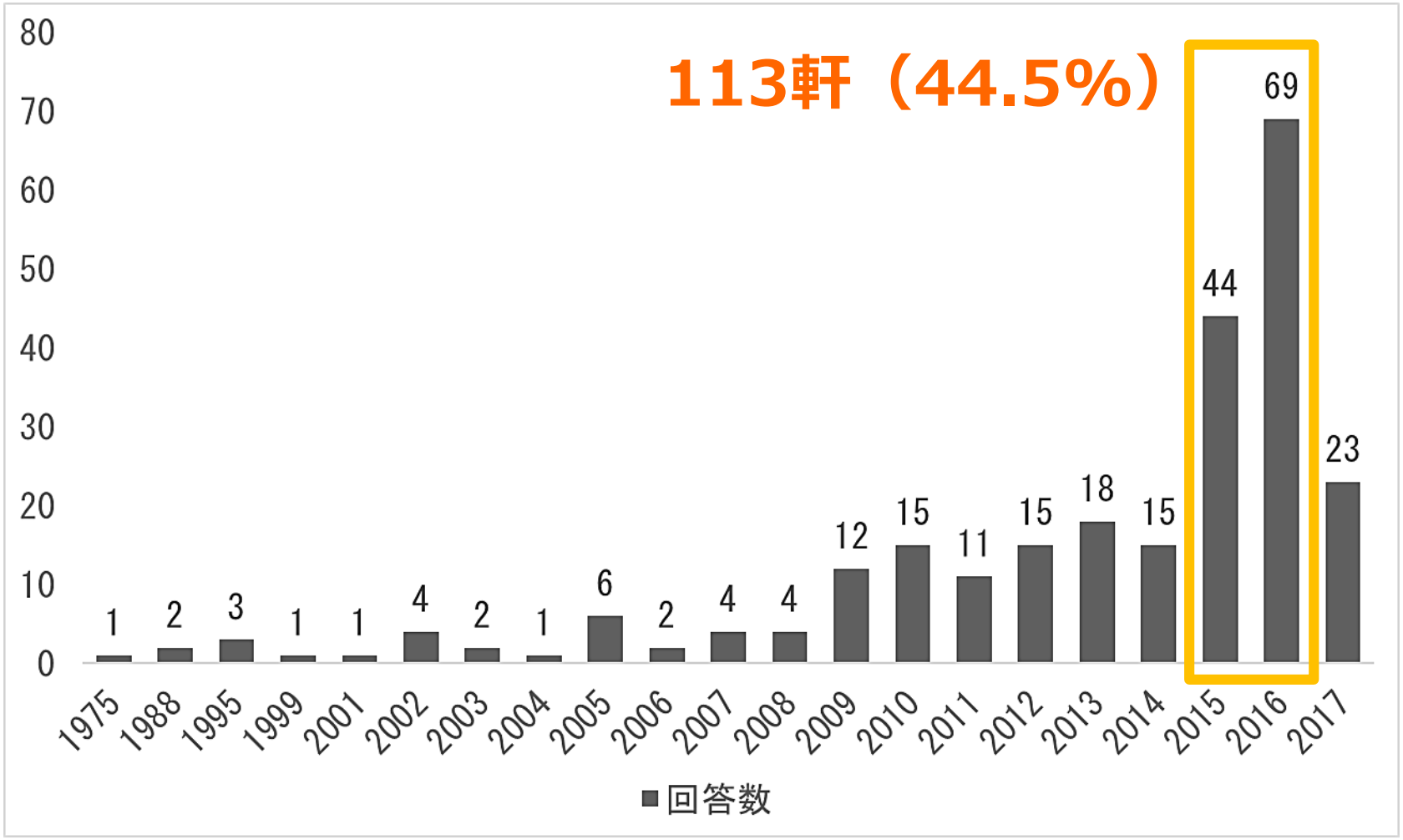
ゲストハウスの定義を満たす施設を抽出

↓

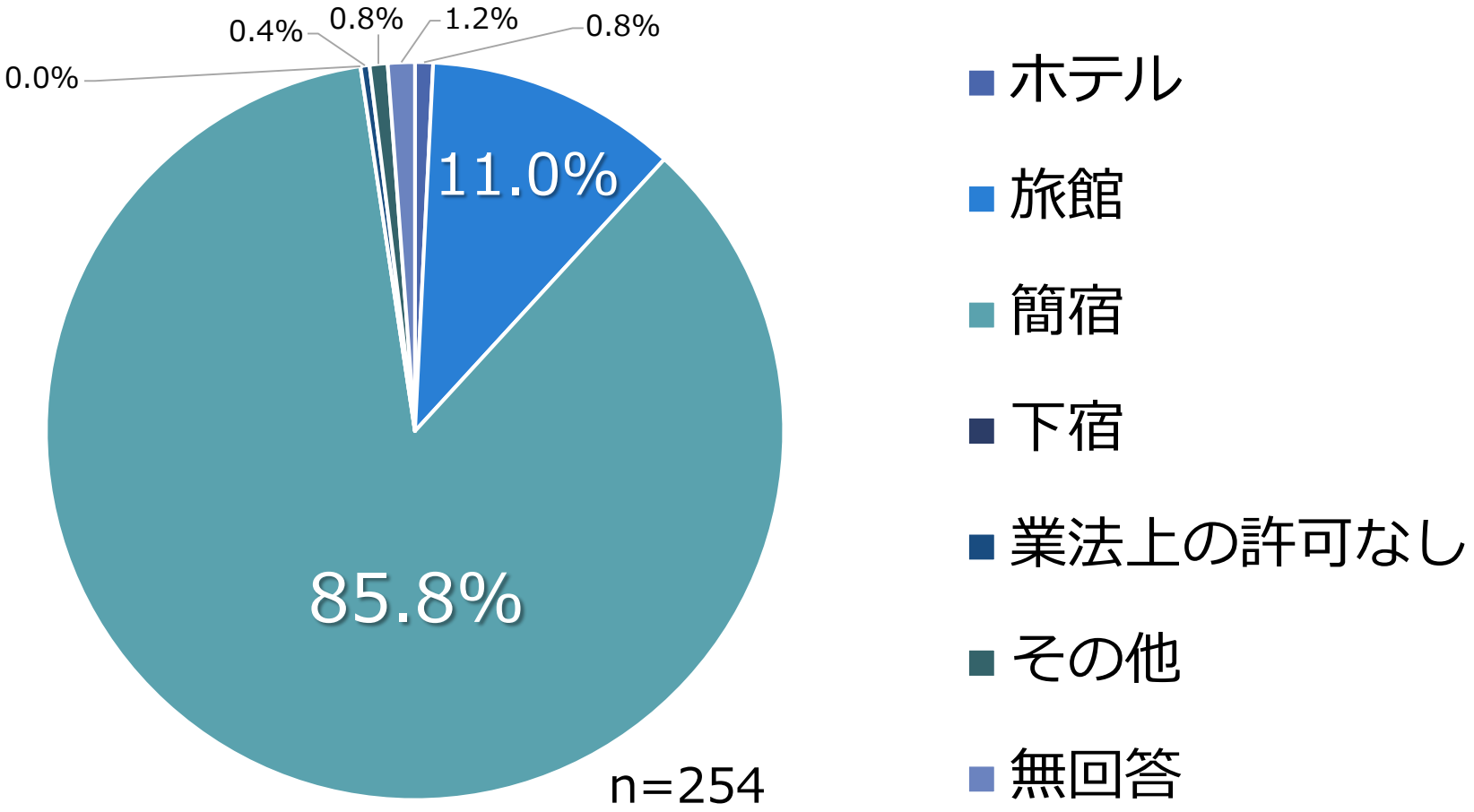
254票＝ＧＨ

問３

調査結果ー開業年


113軒（44.5%）
80
70
60
50
40
30
20
10
0
1
2
3
1
1
4
2
1
6
2
4
4
12
15
11
15
18
15
44
69
23
1975
1988
1995
1999
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
回答数

調査結果ー旅館業法上の営業許可区分



補足

	2012年	2016年	増減
ホテル営業	9,796	10,101	305軒　増
旅館営業	44,744	39,489	5,255軒　減
簡易宿所営業	25,071	29,559	4,488軒　増

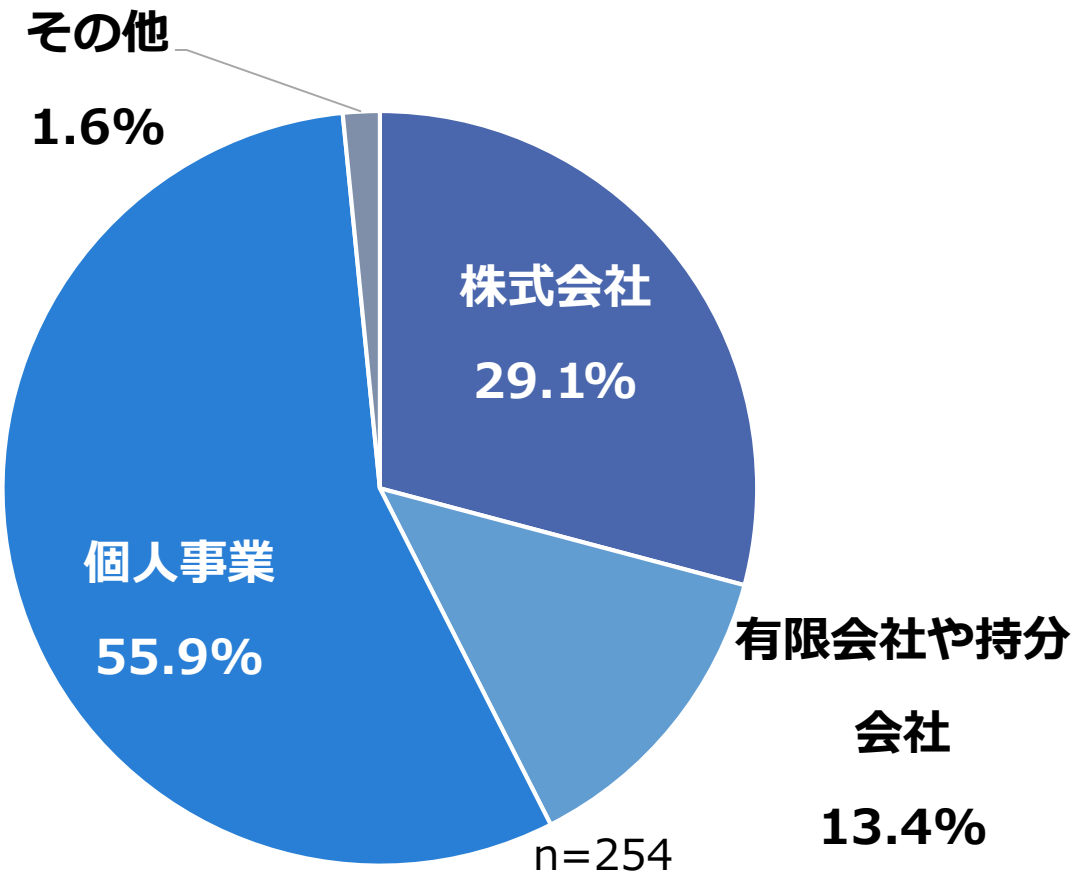
旅館業全体　2015年と2016年の比較

ホテル営業　前年度比　1.3%増

旅館　営業　同上　2.9%減

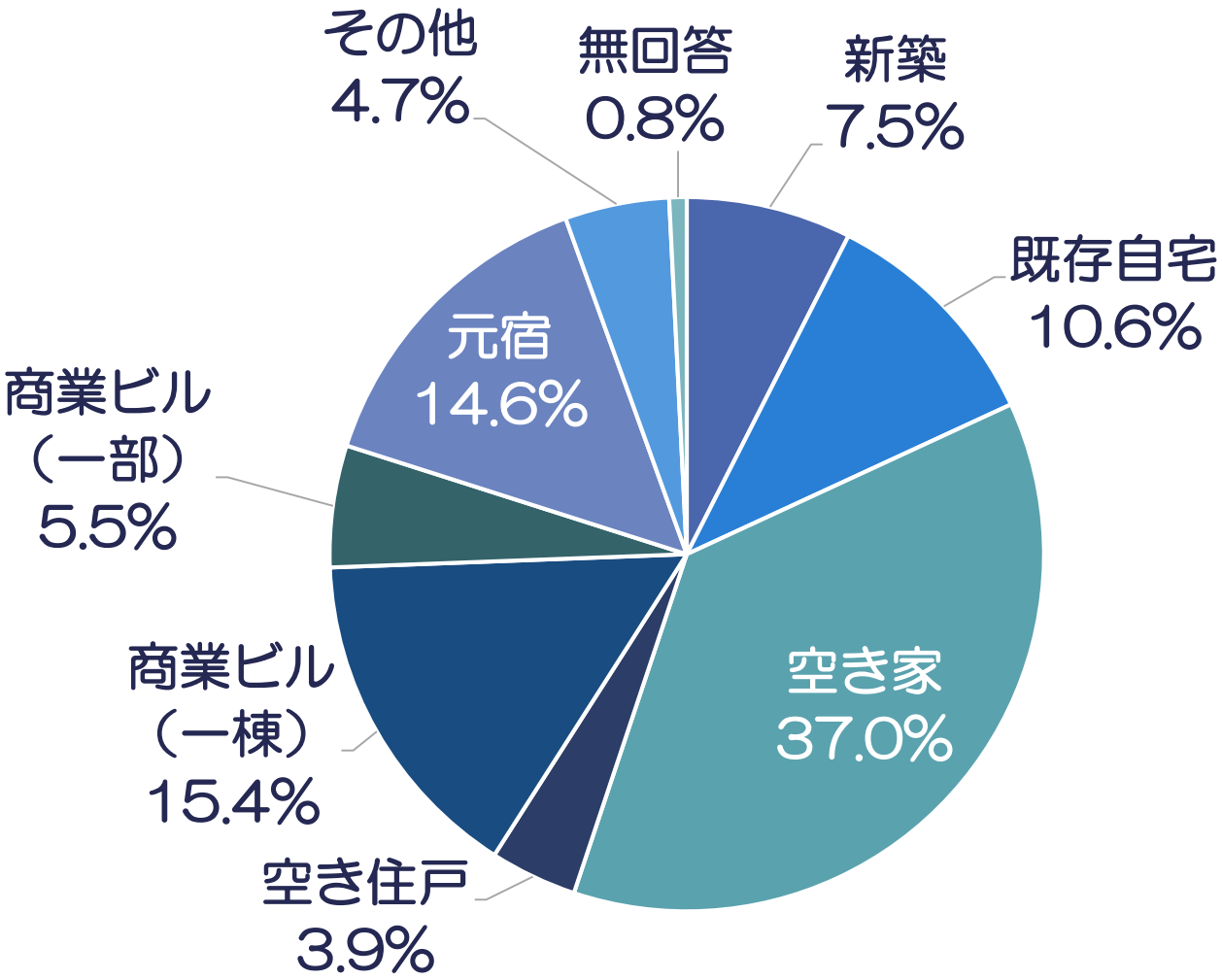
簡宿　営業　同上　8.8%増

調査結果ー経営主体



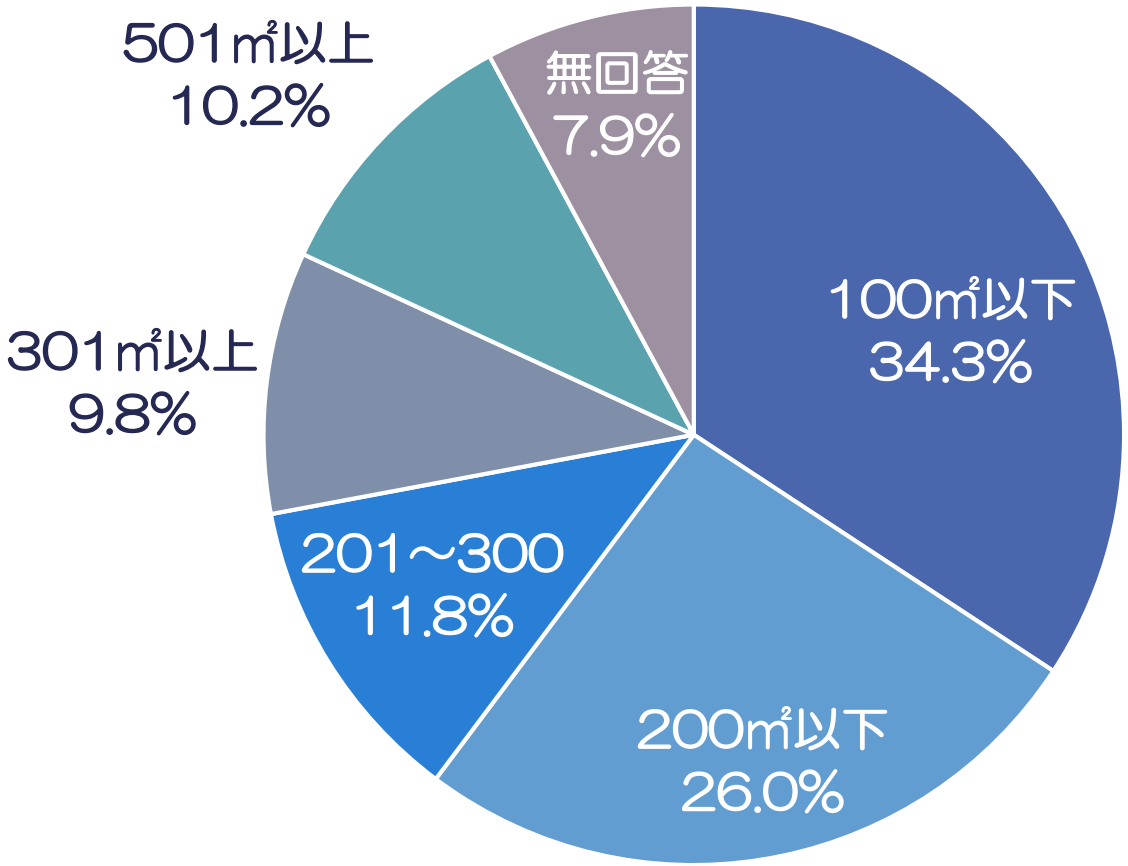
※2006年、有限会社法廃止。
※持分会社には、合名・合資・合同会社を含む。

調査結果ー建物様式



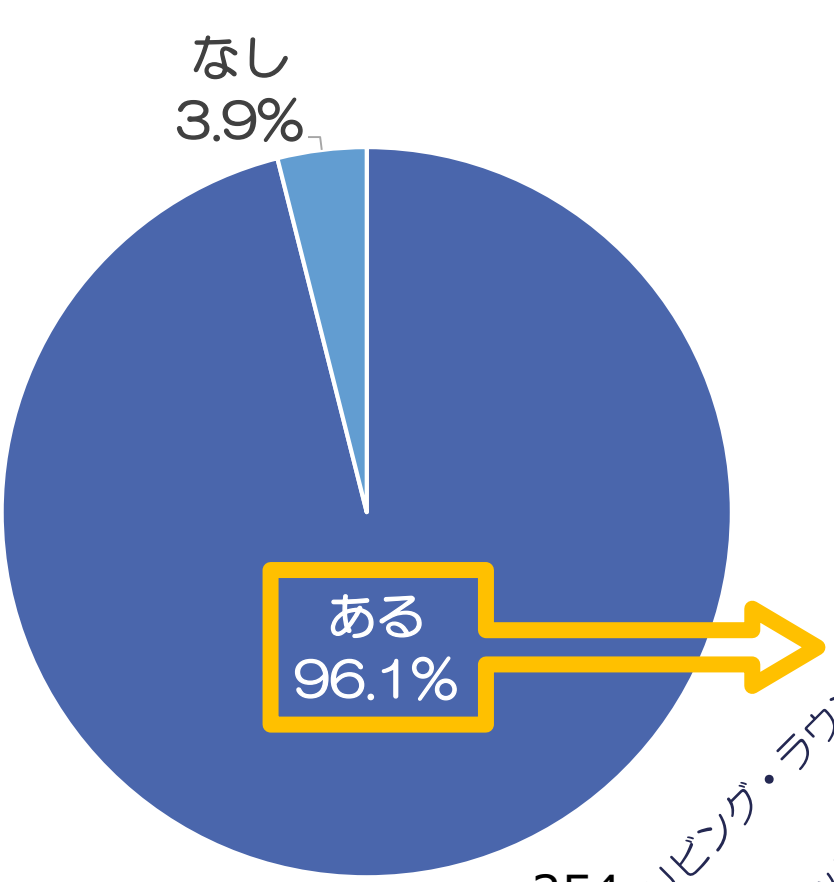
n=254

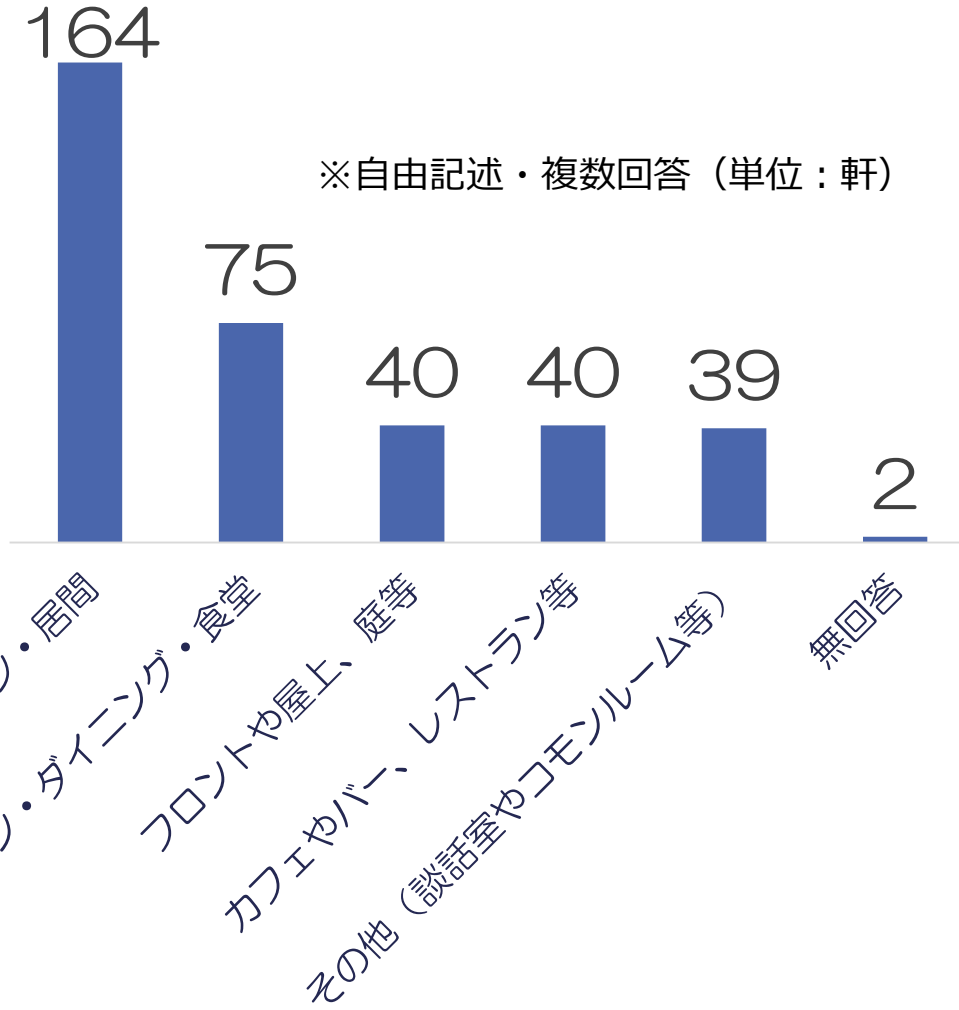
調査結果ー延べ床面積



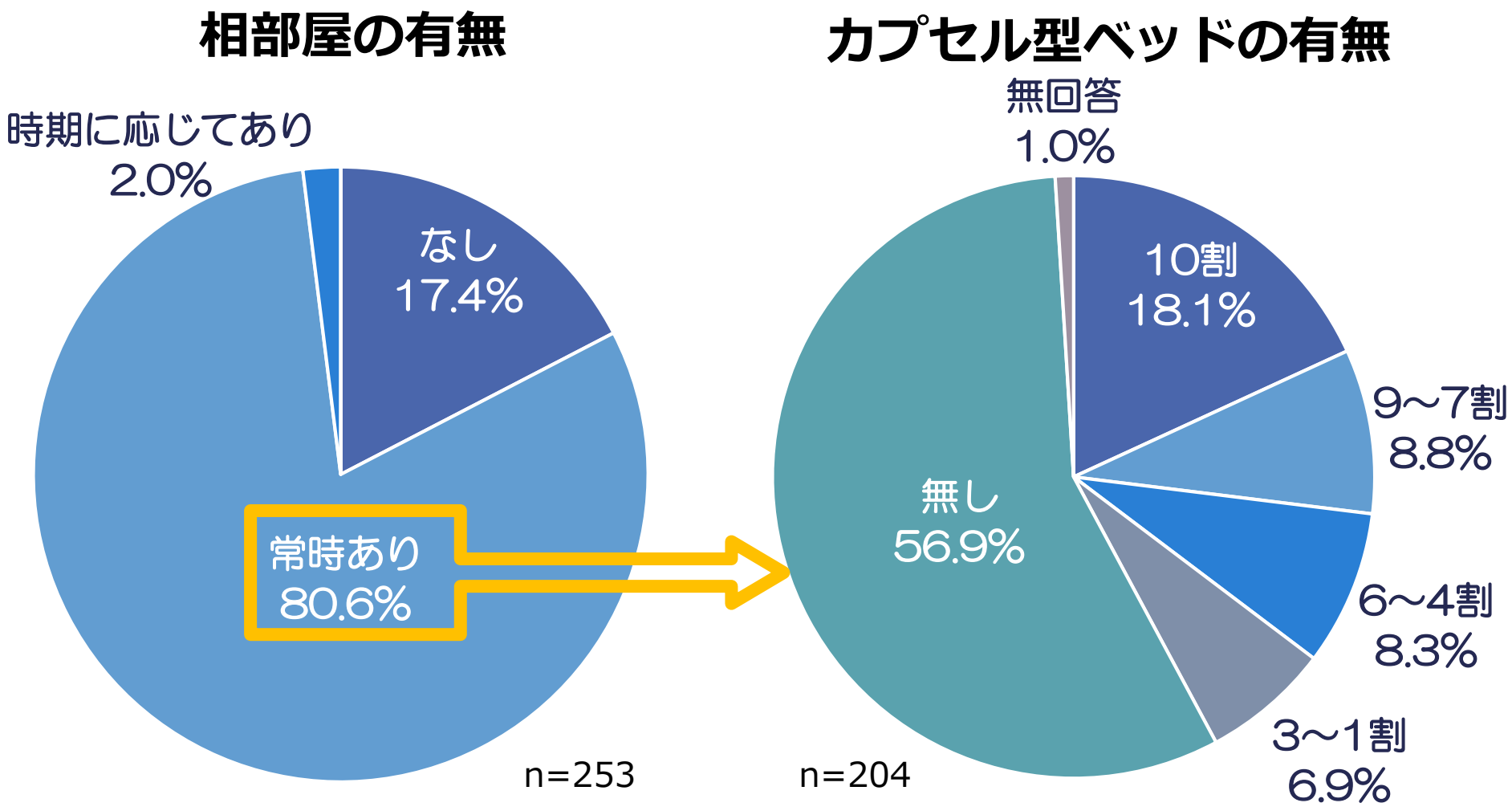
n=254

調査結果ー交流スペースの有無

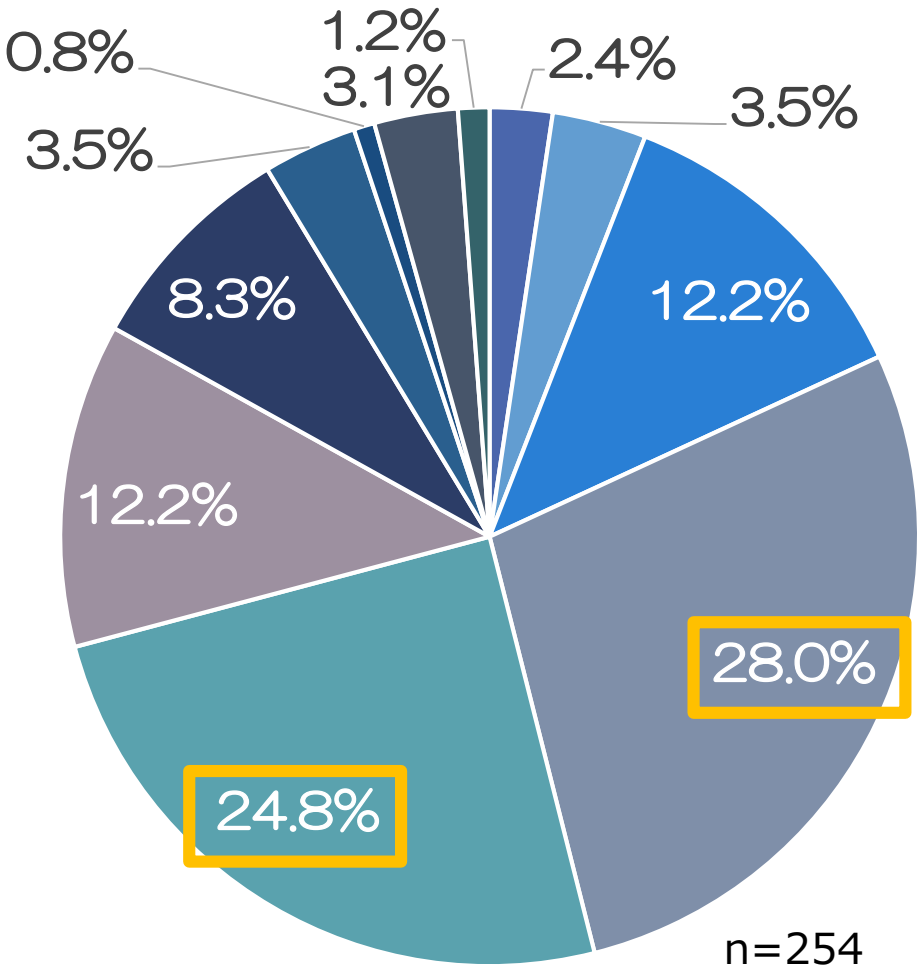




調査結果ー
相部屋・カプセル型ベッドの有無

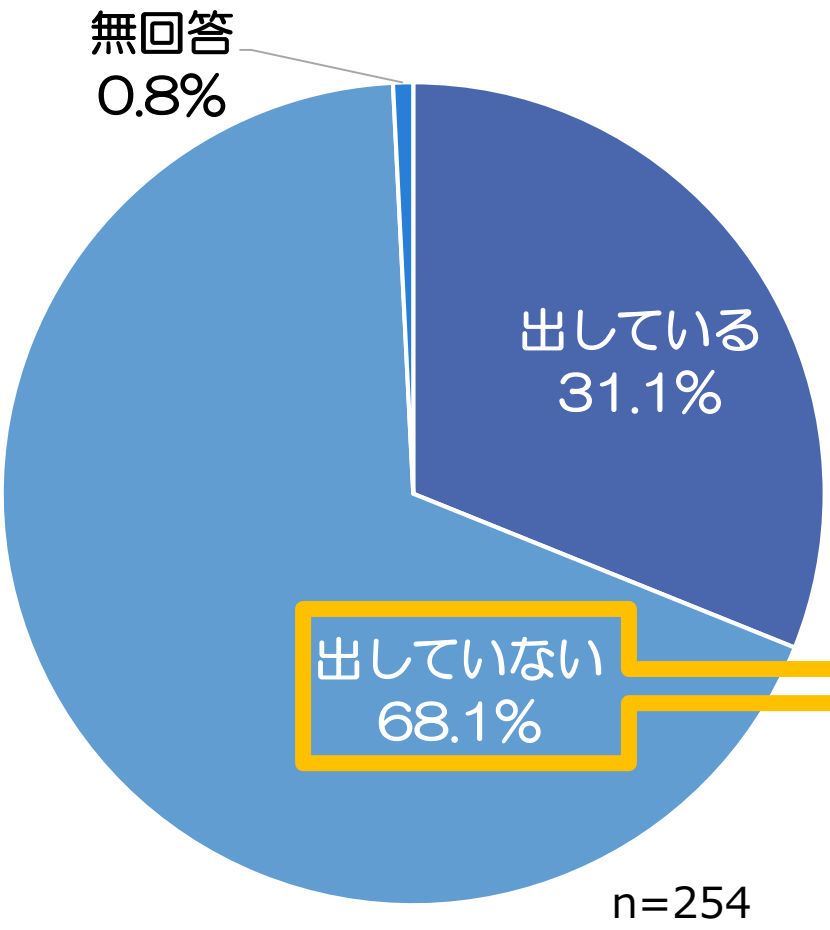


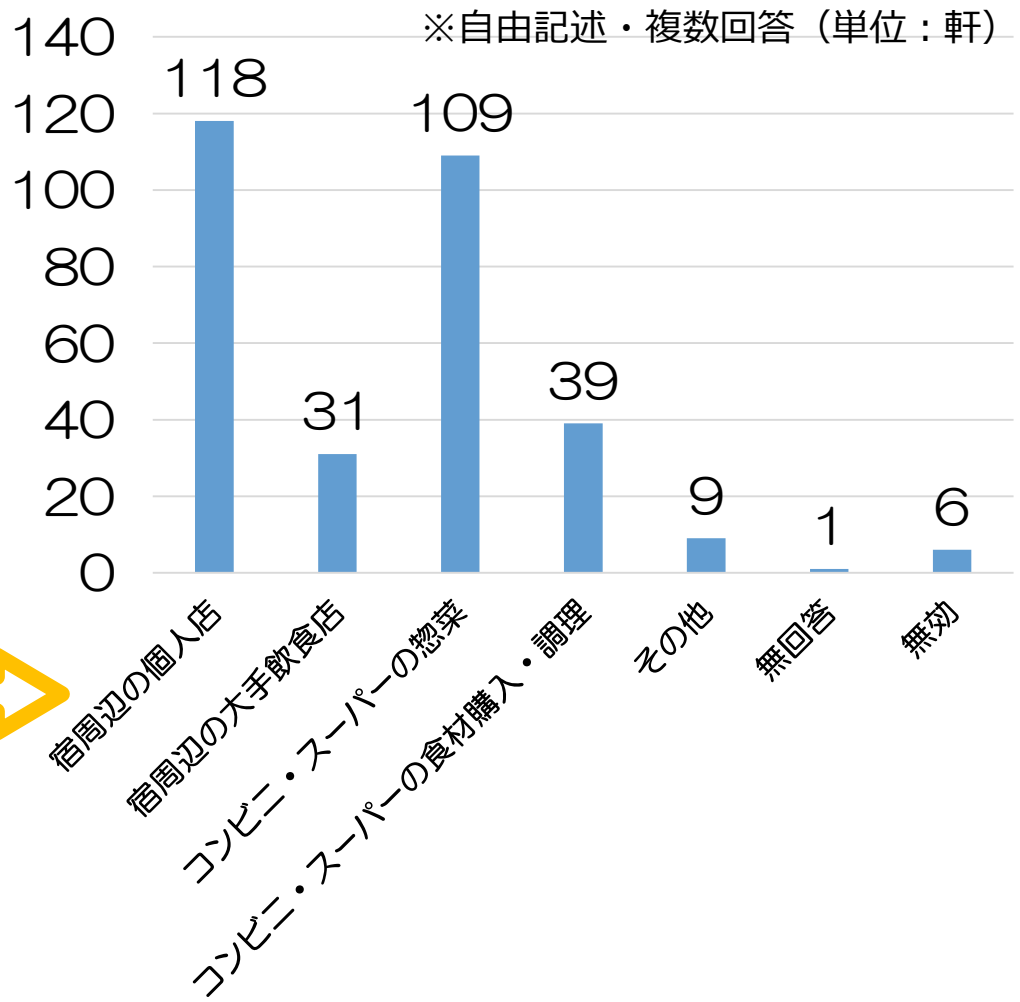
調査結果ー宿泊料金（素泊まり）



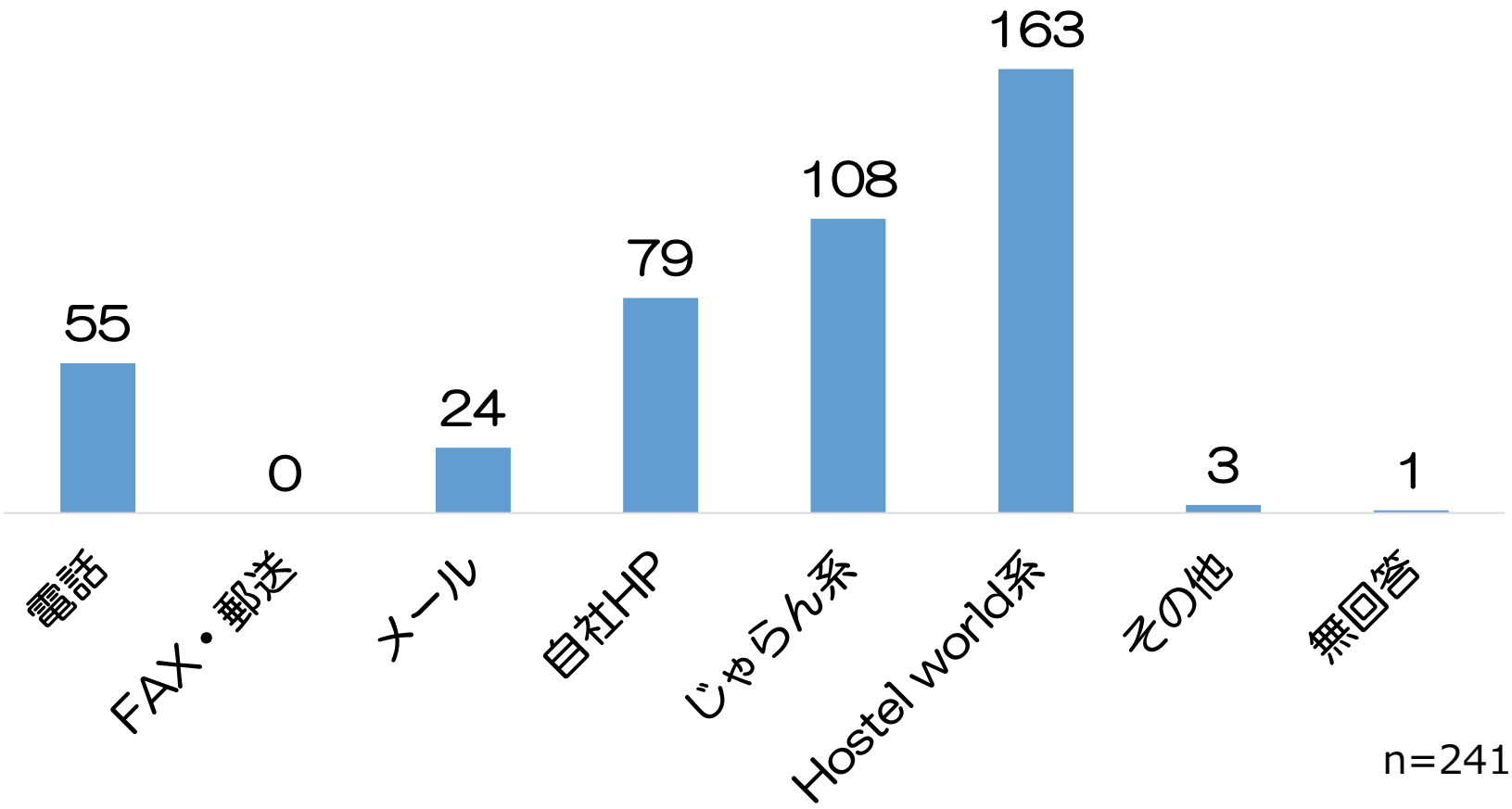
- 1000円以上1500円未満
- 1,500円以上2,000円未満
- 2,000円以上2,500円未満
- 2,500円以上3,000円未満
- 3,000円以上3,500円未満
- 3,500円以上4,000円未満
- 4,000円以上5,000円未満
- 5,000円以上
- 10,000円以上
- その他
- 無回答

調査結果ー食事提供


無回答
0.8%
出している
31.1%
出していない
68.1%
n=254

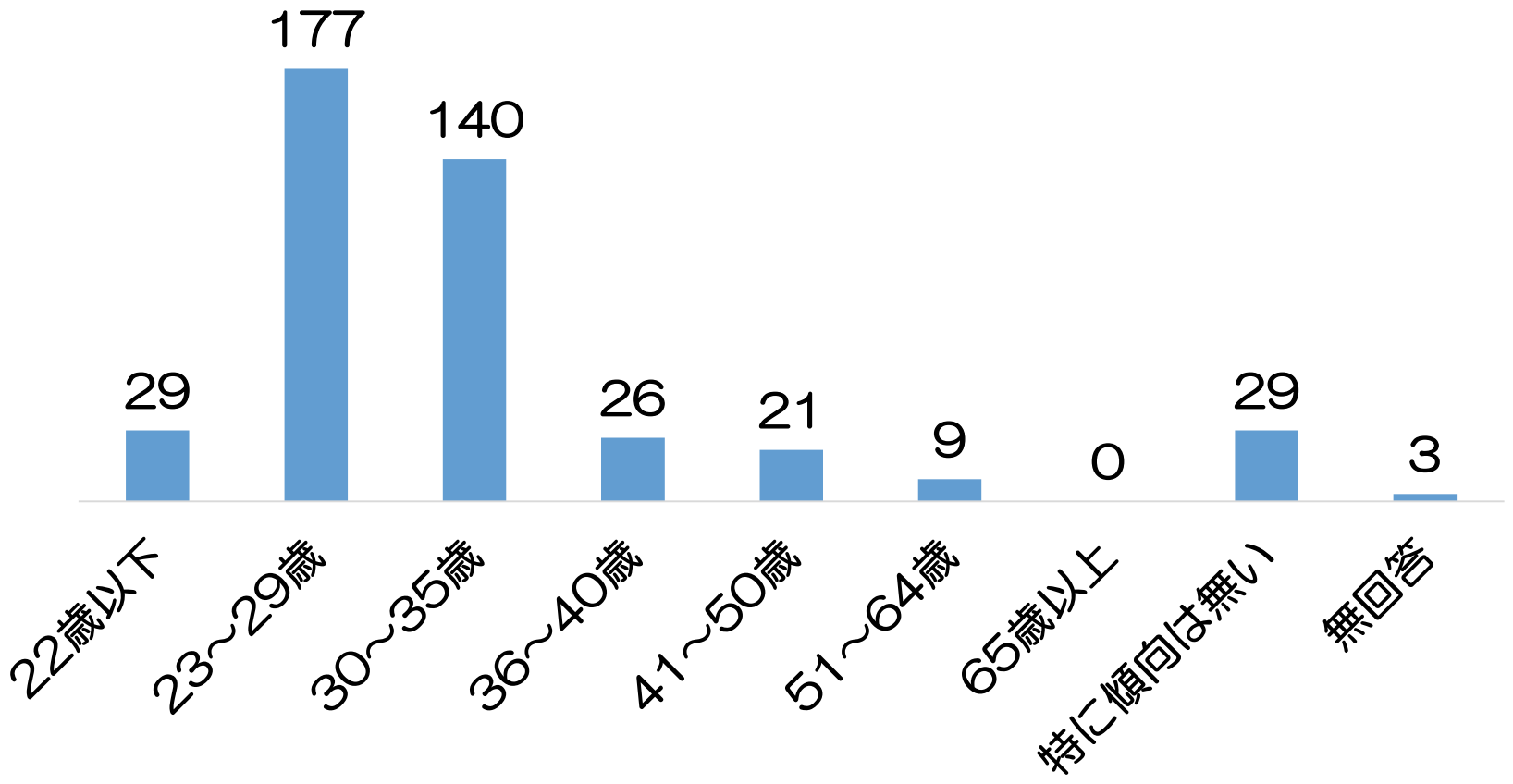

※自由記述・複数回答（単位：軒）
140
120
100
80
60
40
20
0
118
31
109
39
9
1
6
宿周辺の個人店
宿周辺の大手飲食店
コンビニ・スーパーの惣菜
コンビニ・スーパーの食材購入・調理
その他
無回答
無効

調査結果ー予約ツール



※選択項目2つまで選択可（単位：軒）。選択肢を３つ以上選んでいる票（13票）は無効とした。
※「その他」の内訳：「リピーター」(1)、「Facebookページ内メッセージ」(1)、「エア・ビー＆ビー、ホームアウェイ」(1)だった。

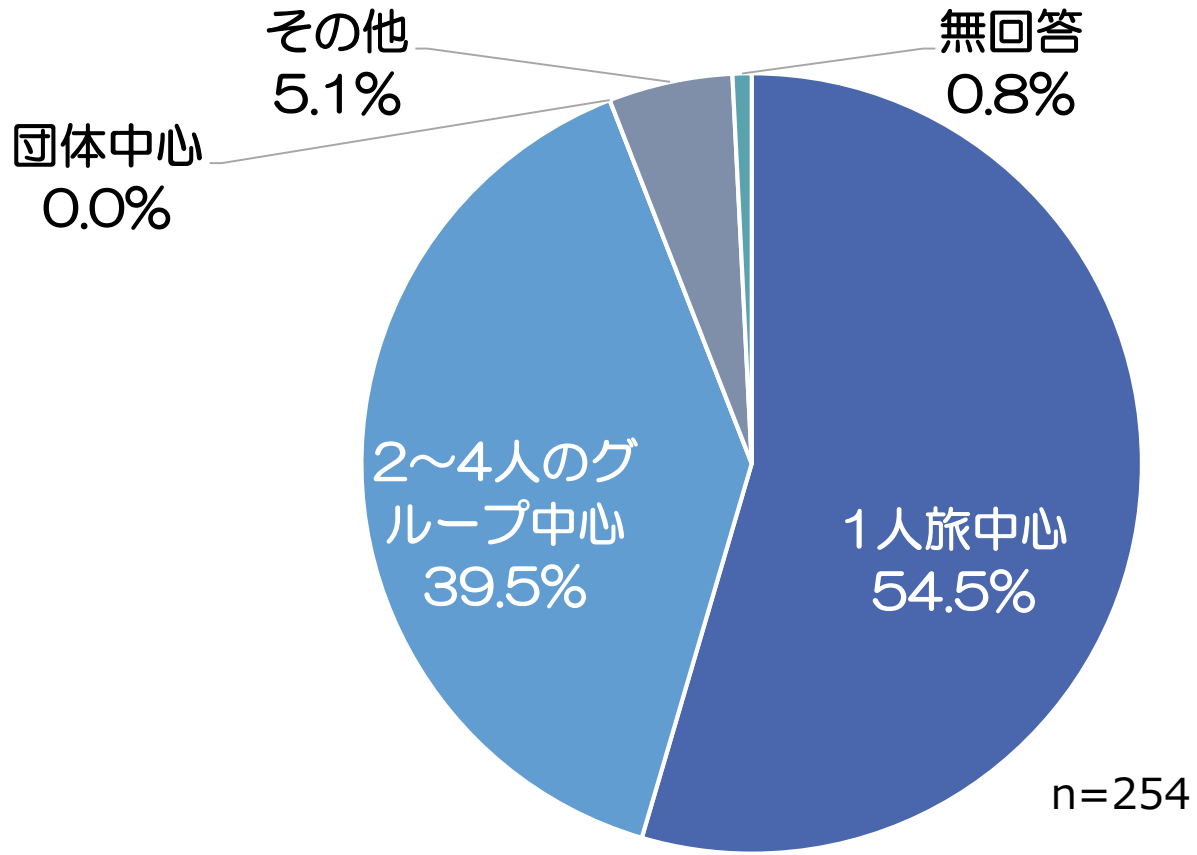
調査結果ー宿泊者の属性



n=251

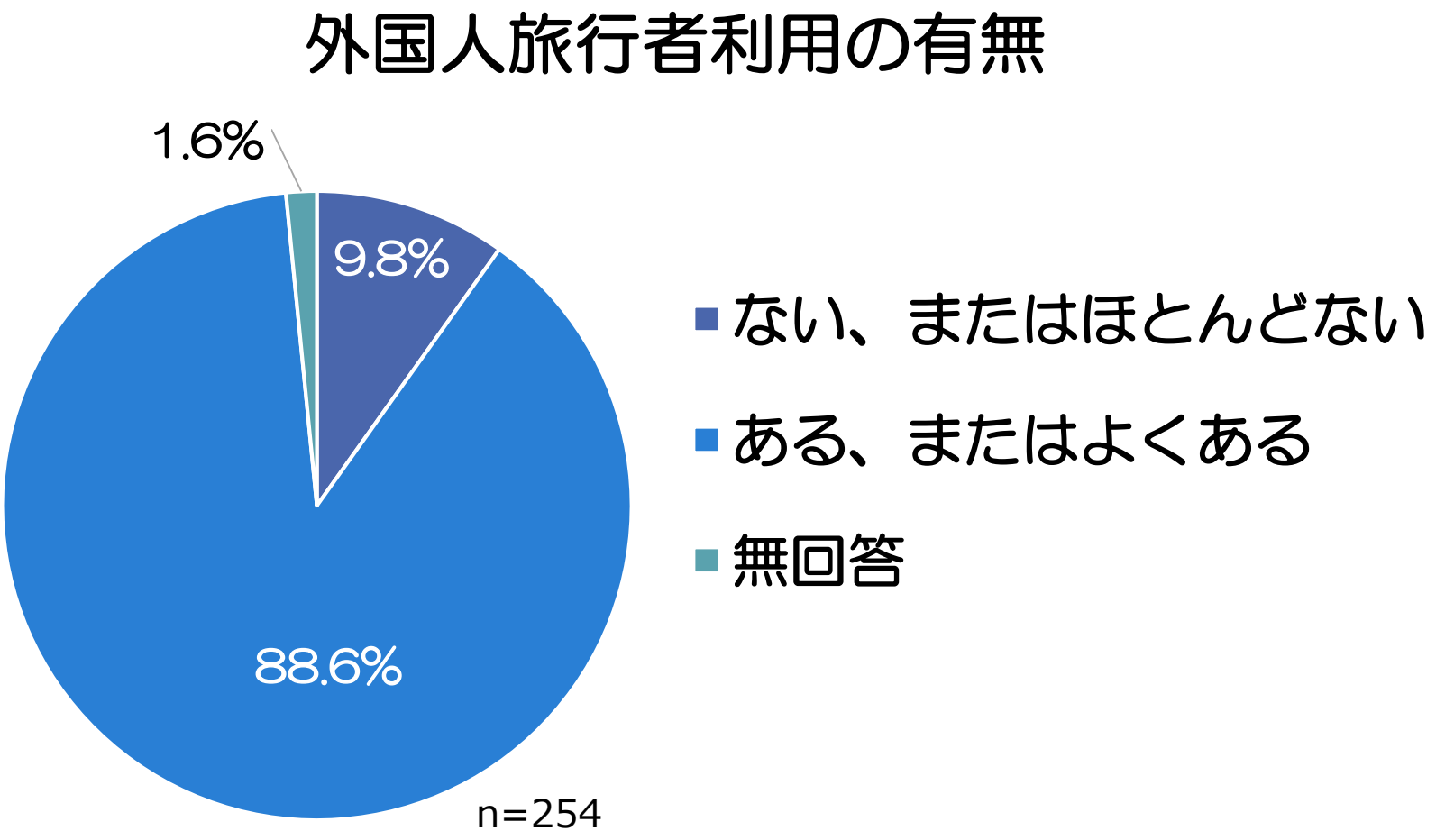
※選択項目2つまで選択可（単位：軒）。選択肢を3つ以上選んでいる3票は無効とした。

調査結果ー宿泊者の属性



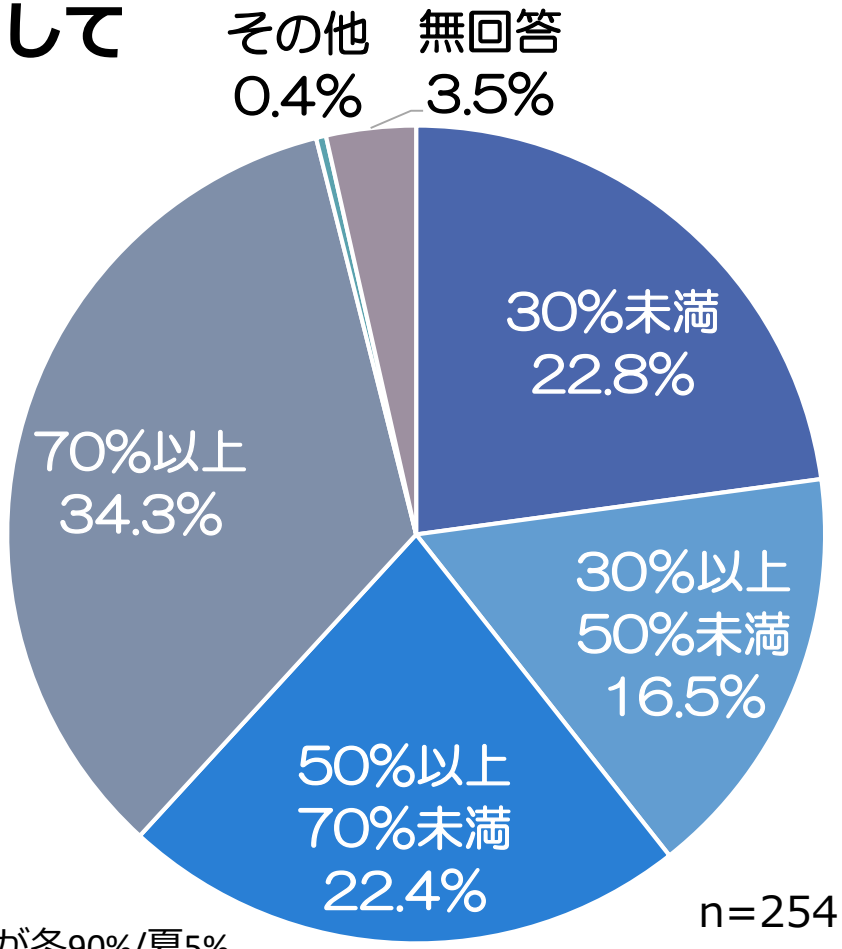
※その他の内訳：「一人旅と少人数のグループが半々くらい」が5軒、「様々である」が5軒、「家族連れ」が2軒、「主としてビジネス利用」が1軒だった。

調査結果ー宿泊者の属性



調査結果ー宿泊者の属性

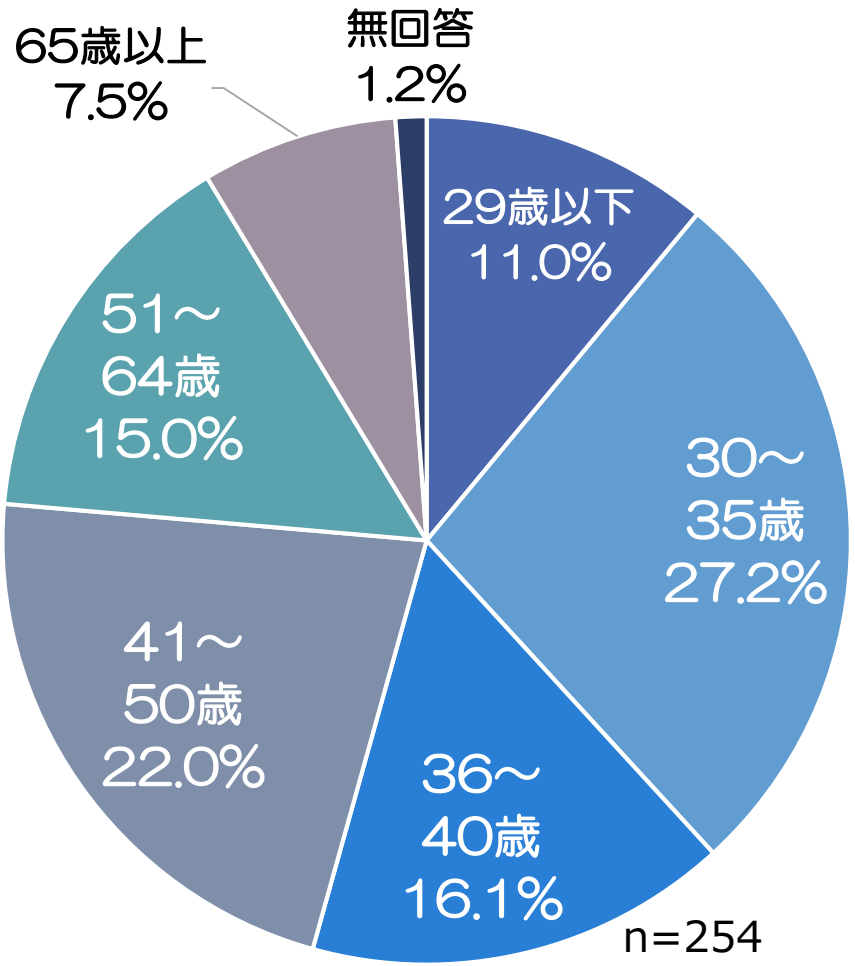
宿泊者全体に対して外国人旅行者の占める割合

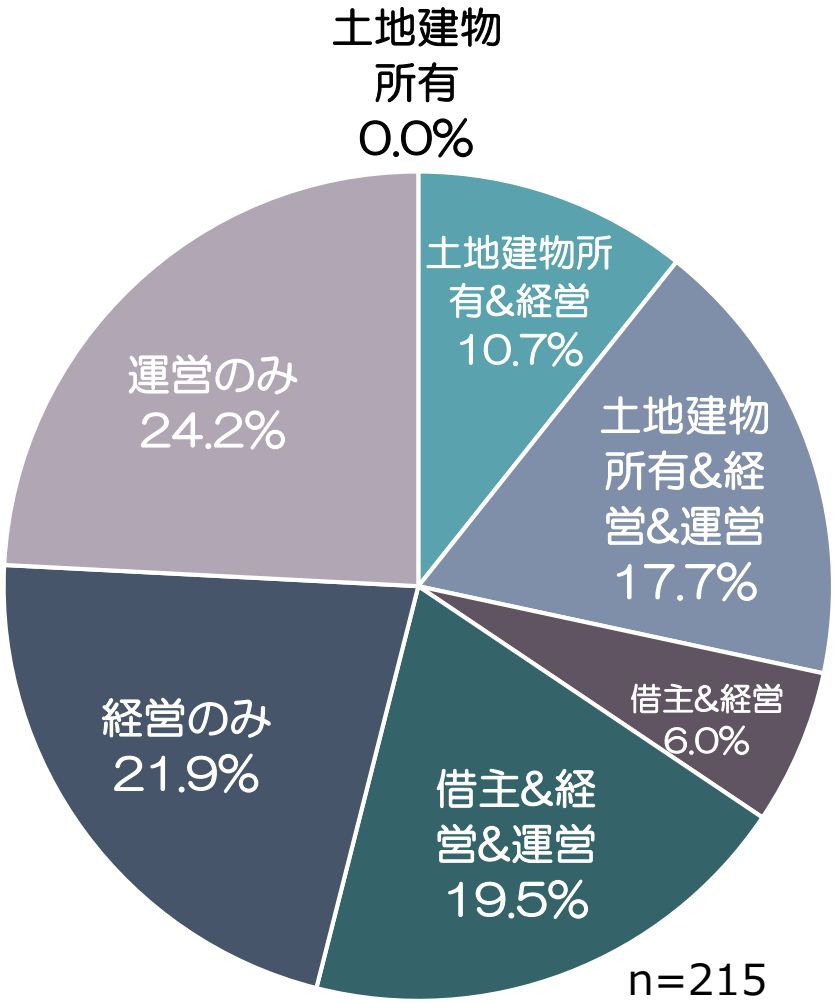


n=254

※「その他」の内訳：「外国人が冬90%/夏5%、日本人が冬10%/夏95%」が1軒あった。

アンケート回答者像
左：年齢像　　右：主な役割や立場





考察

① 2014年頃から、GHブームともいえる状況にあると推察できる

- ✓ 国内全体の傾向として、簡易宿所数が増加傾向である

② GHは施設規模や経営主体、相部屋の有無などによって、いくつかのカテゴリーに分類できる

- ✓ 複合施設化・細分化・高級化・個室化など

③ GHという宿泊施設に望んだり期待したりすることが、数年前とは若干異なっているのではないかと推察できる

- ✓ プライベート空間の確保

今後の課題

1. 2012年調査との比較分析を通じて、GHの経年変化を明らかにすること
2. 本調査の限界
   - ✓ 国内におけるゲストハウスの全容を解明したとは言い難い
   - ✓ 新たな調査方法を検討する必要もある
3. 旅行者視点でのGH利用調査の実施

主な参考文献

- 石川美澄・山村高淑(2014):国内における宿泊施設型ゲストハウスの経営と利用の実態に関する研究、都市計画論文集、49(2)、pp.140-145
- 松原小夜子(2016)：都道府県別にみた宿泊型ゲストハウスの開業実態、椙山女学園大学研究論集自然科学篇、47、pp.95-107
- 小林祐太・森永良丙(2015):地域に開かれた宿泊型ゲストハウスの実態と可能性に関する研究、学術講演梗概集、pp.191-192,
- 片桐由希子・梶山桃子・東秀紀(2015)：都市部の簡易宿所型ゲストハウスにおける交流機能に関する研究、観光科学研究、8、pp.61-69
- 中小企業庁小規模企業部サービス業振興室（1983）『ペンション経営の現状』東京：大蔵省印刷局.